

# 美しい森林づくり

## 小学校のみどり学習における

### 森林環境教育の取り組み

三八上北森林管理署

当署では、十和田市立法奥小学校と協力し、4年前から毎年、みどり学習として森林教室を行っています。

#### ●ブナの森たんけん（3年生）

9月、十和田市内の国有林にあるブナの巨木「森の神」周辺で、森林の大切さを学ぶ森林教室を実施しました。「森の神」は推定樹齢約400年で、根の保護のため柵に囲まれているので、幹周りの長さに合わせて輪にしたロープを広げたり、輪の中に入ったりすることで、巨木の大きさを実感しました。森林の役割や大切さについて学んだ後、付近を散策。ブナやトチの実、キノコを見つけた子供たちから、「ここには何種類の木があって何本あるの?」「キノコはどのようにして生えるの?」「木の根の長さはどれくらい?」などの質問があり、職員が丁寧に答えました。子供たちからは、「ブナの種を初めて見た」「ブナの木の年齢、太さがわかった」「いろんな木を見てよかった」等の感想が聞かれました。



森林の大切さについて学習

#### ●森林・林業・木材産業体験学習（6年生）



柱の重さは?

9月から11月にかけての3日間で、地域の森林と木材生産についての森林教室を実施しました。1日目は教室での事前授業として、職員が先生となり、木を伐り利用することと環境との関わりについて学習。木造住宅1軒に使用される木材の量は柱何本分?といった三択問題などが出題され、木材の量が予想よりも多いことに「おっ」と驚きの声があがっていました。さらに、

適切に伐採・植栽を行って若い樹木を生長させることで、光合成を活発にし、より多くの二酸化炭素を吸収させることができることなどを説明しました。木を伐ることは悪いことというイメージを持っていた児童が多い中、適切に伐って利用することの重要性を理解していただけたと思います。

2日目は、現地見学です。午前中は間伐作業中の国有林で、事業請負者の上北森林組合職員から説明を受けた後、チェーンソーによる伐採作業や高性能林業機械（ハーベスタ）での伐採・枝払い・造材作業を見学。目の前で木が倒れると、児童から歓声や拍手が起り、「オノは使うんですか?」「1日何本くらい木を伐るんですか?」「今まで伐った木で一番樹齢が高いのは何歳でしたか?」など多くの質問が寄せられました。切り株の年輪を皆で数えて、実際の林齢と合っているか?ということも確認。さらに、実際にチェーンソーを持ってその重さを体感したり、ハーベスタの操縦席に座らせていただいたりと盛りだくさんの内容で、児童全員、積極的に体験していました。午後は上北森林組合木材加工センターへ移動し、製造ラインによって丸太から柱や板といった製品を作り出す様子や、端材等を木材乾燥用ボイラーの燃料として利用し、資源を無駄なく使っていることを学びました。



チェーンソーは重い!



慎重にカンナがけ

3日目は、十和田市内のいわきの家(有限会社岩木建設)で、木工体験とモデルハウスの見学です。まず、端材を利用したペン立て作りと、カンナがけの木工体験を行いました。慣れない作業に苦戦しながらも、挑戦するうちにどんどん上達していき、特にカンナがけは皆で競うように2回3回と体験していました。その後モデルハウスの中へ移動し、社長から使用している木材やその良さについて説明を受け、とくに10種類以上の木材が使われていることに驚きの声が上がりました。説明の後は、30分ほどモデルハウスの中を自由に探検し、木材が住宅に使用されている様子を学びながらも、あちこちで子供達の歓声があり、楽しみながら木材に親しむことができました。

この森林教室を通じて、循環資源としての森林の大切さとともに、林業・建築という仕事の役割や魅力、大変さなどを伝えることができたのではないかと思います。